

“第四の被曝”を考える

1958年 7月12日

映像と講演のつどい

第一部：NHK スペシャル

『封じられた“第四の被曝”
～なぜ夫は死んだのか～』

第二部：講演

横里征二郎さん（NHK ディレクター）

演題 「封じられた“第四の被曝”」から見てきたこと

日時 7月12日（土）

13:30～16:30（13:00 開場）

場所 平塚市中央公民館

小ホール（4F）

資料代 500円（大学生以下無料）

託児あり 一人100円

（6/19 までにお申込みください）

申込みフォーム
はこちら



参加申込み

hiromeru19580712@gmail.com

お問合せ

小嶋 090-6798-7534

渡辺 090-1555-5090

主催

福島親子とともに・平塚
共催

「第四の被曝」を広める会

「第四の被曝」とは何か

第一の被曝
ヒロシマ

1945 年 8.6

第二の被曝
ナガサキ

1945年8.9

第三の被曝
ビキニ

1954 年 3.1

測量船「拓洋」
巡視船「さつま」

1958年 7月12日
“第四の被曝”

そして、第五の被曝

2011年3.11 フクシマ



1958 年 7 月 3 日～7 月 19 日までの海上保安庁測量船「拓洋」の航路



乗員の被ばく線量は、広島島の爆心地から 1.8 キロの場所にいた人の被ばく放射線量に相当すると算出された。

※写真はすべて NHK ホームページ「NHK スペシャル」より

知って欲しい“封じられた第四の被曝”

昨年 9 月、NHK スペシャルの放映によって、私たちは驚きの事実を知りました。

1958 年、海洋調査中の海上保安庁測量船「拓洋」と巡視船「さつま」の乗員 113 名が、南太平洋上でアメリカの水爆実験による放射能を浴びていた事。その 1 年後には「拓洋」の機関士の永野博吉さんが急性骨髄性白血病で 34 歳の命を奪われた事。ところが国は「放射線量は“微量で、死因とは関係ない”と死そのものを“秘密”として妻の口封じをした事実です。時はビキニ事件の 4 年後、日米新安保の改訂前夜です。

私たちは日本とアメリカの政府にとって、この不都合な出来事の真相を知りたいと思います。

この絶好の機会にあなたも参加してご自身の耳目で、“第四の被曝”をとらえて頂きたいと願います。

あなたのご来場をお待ちしております。

「第四の被曝」を広める会 代表 大藏律子



横里征二郎氏プロフィール

NHK 大阪放送局コンテンツセンター第 3 部チーフ・ディレクター。1981 年東京都生まれ。2004 年に NHK に入局。入局後は、クローズアップ現代や NHK スペシャルなど報道系の番組制作に数多く関わる。

主な作品「封じられた“第四の被曝”」「忘れられた戦後補償」など